

令和5年度 シラバス 音楽Ⅱ

芸術科「音楽Ⅱ」 シラバス	単位数	2単位	担当者	
	学年・学級		第2学年 3組	
	使用教科書（出版社名）		音楽Ⅱ Tutti+（教育出版）	

1 教科の目標（講座のねらい）

- (1) 音楽Ⅰの学習経験を基盤として、質的に高めた音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせながら、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化とより深く関わる資質・能力を育成する。
- (2) 音楽Ⅰの学習成果を踏まえ、文化的・歴史的背景や音楽の多様性について理解を深め、より広い視野で音楽を捉えることができるようにする。
- (3) 個性豊かな音楽表現を創意工夫できるようにするために、必要となる技能を身に付け高めることができるようにする。
- (4) 音や音楽を知覚・感受し、思考・判断する過程を充実させ、音楽を評価しながらそのよさや美しさを深く味わって聴く力を高める。
- (5) 主体的・協働的な音楽活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、音や音楽のよさや美しさなどを自ら進んで感じ取ろうとする態度を養う。
- (6) 音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度や音楽の知的財産権を尊重する態度を養う。

2 育てたい生徒像

「音楽Ⅱ」では、「音楽Ⅰ」の学習経験を基盤として、生徒一人一人が音楽を永続的に愛好する心情を育むとともに、生涯にわたって豊かな音楽活動をしていくために必要となる知識や技能を確実に身に付けさせたい。そのため、生徒自らが感性を働かせて思考・判断しながら個性豊かに表現できるような場の設定や、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、理解したことを根拠として批評するなど、より主体的に音楽と関わりながら鑑賞する場の設定を工夫する。

具体的には、第一に歌唱や器楽の学習活動において独唱(奏)、小アンサンブル、合唱(奏)などの様々な規模・形態の表現活動を取り入れる。その際、教材を選択できるようにし、自分の目指す音楽表現をするための課題を主体的に解決できるよう支援していく。第二には、表現領域の学習において一人一人が音楽について思考・判断したことを様々な方法で表現できる場を設ける。音楽を形づくっている要素やそれらの働きの知覚・感受に基づく創意工夫はもちろんのこと、音による表現に加えて、調査研究やレポート発表、討論などの課題も取り入れ、音楽との多様な関わり方に関心をもたせたい。第三には、世界の様々な音楽や日本の伝統音楽などにこれまで以上に幅広く親しませ、広い視野で音楽を捉えられるような題材を設定する。音や音楽を表現したり鑑賞したりする音楽の学習や楽しみ方に加えて、楽曲の背景にある文化や社会との関わりといった多様な視点からの音楽学習や楽しみ方を追究させたい。

これらの取り組みによって、生徒一人一人の生涯にわたって音楽を愛好する心情や音楽文化と深く関わる態度をこれまで以上に豊かに育んでいきたい。

3 授業の内容と学習方法

- (1) 日本の伝統音楽や世界の様々な音楽について、文化的・歴史的背景の学習とともに、発声の特徴を生かして歌うなどの具体的な音楽表現を通して理解を深められるようにする。
- (2) 音楽を形づくっている要素の働きが楽曲の特徴にどのような役割を果たしているかを理解できるように、表現教材の学習と創作や鑑賞の学習の有機的な関連に配慮して題材を構成する。
- (3) 音楽文化についての理解を深めるために、音楽が文学や絵画などの諸芸術や他の文化と互いにどの

ように影響し合って発展してきたかを考えられるような題材を設定する。

- (4) 表現教材の学習にあたっては内容に応じて選択制を取り入れ、「音楽Ⅰ」で身に付けた創造的な表現の能力を個性豊かな表現の能力に伸長できるよう独唱(奏)、小アンサンブル、合唱(奏)などの様々な規模・形態の表現活動を取り入れる。
- (5) 音楽との多様な関わり方に関心をもたせ、思考・判断し、自らの考えを表す力を伸ばすため、長期休業中に課題レポートを課す。